

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870800301
法人名	医療法人 愛愛会
事業所名	グループホーム いしかわ
所在地	四国中央市上分町861番地20
自己評価作成日	平成 21年 7月 21日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 ※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成21年8月11日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地形的に山の切り立った所に施設がある為、地域のひととの交流の場が少ないですが、春には筍の子狩り、秋には栗拾いと季節感や森林浴が間近かに味わえます。唯一併設の保育所の園児との交流会を月2回行っており、現在の核家族では味わえない世代を超えた場面の共有と、心の触れ合いができており、ボランティアによる音楽療養は認知症の進行において役に立っていると思います。地域密着型施設として、地元の方に「グループホーム いしかわ」はどんな所か、を知って頂く為に出来るだけ多くの方と交流できるように運営推進会議の委員の方や、ボランティアの方々の訪問を大切にしています。また、協力病院から訪問看護が週ノ3回訪問しており、入居者様の健康管理体制は整っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

医療法人が運営するホームで、母体病院の支援が得られ健康面で心強い。また、同系列の訪問看護ステーションの看護師が週に3回、利用者の健康チェックを行ない、必要時には医療対応をしている。また、同系列の老人保健施設、ケアハウス、デイサービス事業所等と連携があり、行事等を共に行っている。職員は利用者の思いやペースを大切に、笑顔で接しながら、自立に向けた支援をしている。ホームは山林地にあり、利用者は筍や栗等の山の幸を収穫し食することを楽しみ、ゆったりと暮らしている。ホームには多くのボランティアが訪れ、災害時には地区消防団の支援が得られる仕組みがある。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

(別表第1の2)

# 自己評価及び外部評価結果表

## サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

### 【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

### ※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。  
(他に「家族」に限定する項目がある)

- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。  
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!  
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!  
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名	グループホーム いしかわ
(ユニット名)	かえで
記入者(管理者)	
氏名	大原 かおり
評価完了日	21 年 7 月 21 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
<b>I.理念に基づく運営</b>				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 私達の理念は、1 入居者様一人一人のペースに合わせるケアの提供 2 コミュニケーションを大切にしてい、心穏やかに笑顔で暮らせる環境作り 3 入居者様の意思を尊重して、自立の支援であり、日々実践に繋がられるよう各フロアーに掲げている。また個人の介護感も設定している。</p> <p>(外部評価) ホームは周辺の地域とのコミュニケーションを深め、利用者が地域でその人らしく暮らすことを願った理念をつくっている。管理者と職員は理念を居間に掲示し、申送りや職員会等でとりあげて共有に努めている。職員は各々、理念を具体化した目標をつくり実践につなげている。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	<p>(自己評価) 近所の盆踊り大会や秋祭りに、呼んで頂く事があるので入居者様の状態に合わせて、少人数ではありますが、積極的に参加している。</p> <p>(外部評価) 利用者は地域の盆踊りやお祭りに参加し、行事を楽しんでいる。地域のボランティアが音楽療法、大正琴、三味線、舞踊などで来訪したり、市内の高校生が就業体験に来たり、地域の人が草引きをしてくれる等の交流ができています。</p>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 近所に民家がほとんど無いため、そこまでに至っていないのが実情である。 保育所との関わりは、各家族が進む中、高齢者と子供たちが、触れ合える時間を共有できる、唯一の場所となっていると思っている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	<p>(自己評価) 年2回家族会にお参加して頂き、利用者様の状況や家族とのふれあいや心配事の事などの意見交換や、ヒヤリハットの報告やサービス向上等も隠さず話し合いを持っており、業務に対しての労いなども頂いている。</p> <p>(外部評価) 会議ではホームの状況や行事、利用者の状態等を報告し、参加者から質問や意見が出されている。出された提案やボランティアの情報等をサービス向上に活かしている。会議の参加者が家族会に出席したり、体操や行事に利用者とともに参加できるよう工夫する等、柔軟な会議運営をしている。</p>	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	<p>(自己評価) 地域包括支援センターより、認知症高齢者のモデル事業計画を、推進会議の席を借りて説明の機会を設けたり、介護保険の更新時には、窓口へ直接伺い近況報告を行っている。</p> <p>(外部評価) ホームは市の担当課を介護保険の更新で訪れた時などに、利用者の状況を報告して相談する等、日常的に連携し合っている。また、担当者から介護保険や認知症の情報を随時得ており、よい協力関係が築けている。</p>	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	<p>(自己評価) 日中はいつでも出入り出来るようになっている。夜間は防犯の為、自動ロックされている。施設内のベランダや風呂場など危険場所に関しては、リスクや事故防止の為施錠を行っております。身体拘束は行っておりません。理解を深める為に、研修に参加したり職員会の時に伝達し日々心ざして実践に繋がっています。</p> <p>(外部評価) 代表者及び職員は身体拘束の弊害を認識し、拘束しないケアを心がけている。玄関は昼間は施錠してないが、外に自由に出られない時間帯もあり、この時間帯を少なくするよう努めている。ベッドからの転落防止策では柵をしないで横にマットを敷く、布団で寝る等の対応をしている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 何気ない日々の業務の中で、適切でない言葉がでた時は、管理者が個人的に注意をしています。定期的に研修にも参加し伝達講習も行っております。施設内での、虐待は行っておりません。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 先日人権擁護の委員方と、施設側との食事・交流会を行い勉強する機会を持ちました。四国中央市全域の方がおられ、施設の状況を知って頂く良い交流が出来たと思います。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 入所の前には必ず施設に来所頂き、施設見学や施設の形態様式や病状管理など家族の心配等を聴取し説明しています。まず1日からでも、体験入所と言う方法を取っており、納得した上で契約させて頂いています。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 月1回高齢介護課より、ふれあい相談員さんが来てくださり、入居者様の状況等を見て下さったり、生の声も聞いて頂いております。満足度調査を行っており、介護サービスに活かせるように行っております。  (外部評価) 利用者の思いや意見は、日頃の会話、家族からの情報、相談員の聴き取り等で把握し、家族の要望等は来訪時、家族会、年1回の満足度調査、ご意見箱等で把握し運営に反映させている。苦情・相談の窓口は外部と内部に分けて文書に明記し、家族にも説明している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	<p>(自己評価) 職員会の時に全体の意見を聞き、日々の業務で簡潔に明確に業務が出来るように、業務改善シートの作成を行い、よりよいサービスが出来るように改善しています。問題事項に関しては、在宅部門や法人内の管理者会議でも取り上げており、業務に反映させているとおもいます。</p> <p>(外部評価) 職員の意見や提案は、朝礼時の意見交換、業務中の気づきの申し出、毎月の職員会等で把握し、業務改善や運営に反映させている。</p>	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	<p>(自己評価) 資格取得や、活発な各種委員会の会議の出席などの参加には資格手当を支給しています。</p>	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	<p>(自己評価) GH連絡協議会の研修や法人内の勉強会には積極的に参加し、サービスの質の向上に励んでいる。施設内では、月1回の職員会に職員全体が集まるので勉強を開催している。</p>	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	<p>(自己評価) 隣のGHの管理者と定期的に近況報告や情報交換を行う機会を作っており、お互いの施設を行き来している。入居者同士のボランティアなどの交流やソープン流しなどを利用して交流している。</p>	
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	<p>(自己評価) 入居申し込みを受けてからの待機時期の段階から、半年に1度は自宅に管理者が電話し、家族から現在の状況等を確認する。可能であれば、今利用しているサービス施設に出向いたり、交流の場があれば話す事もある。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 入居申し込みを受けてからの待機時期の段階から、半年に1度は、自宅に管理者が電話する。その時に家族から再度入居の待機状況や入居の意思の確認を伺いすると共に、家族の不満や介護負担を聴取し関係が継続できるようにしている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 本人家族はもちろんの事、ケアマネやMSWとの情報交換を行い、その背景にある問題を見極め、サービス利用に努めている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場にもかかわらず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 同じ主婦の先輩・女性として嫁姑の様な存在で居られるように、洗濯や調理ど、普段の家事や子育ての悩みなど日々、会話の中で関わり良い関係作りを心がけている	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場にもかかわらず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 職員は家族との関係には、どうしても勝てません。面会の制限を行なうことなく、来所して頂き近況の報告と一緒に過ごせる時間を共有する機会をもっています。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 担当のケアマネの方や、利用していた通所担当者も施設に訪問してくれる時があり、会話を楽しまれる事もある。以前住んでいた地域の民生員さんや近所の方の訪問があり会話やお茶の時間が持てている。  (外部評価) 家族や友人、民生委員、近隣の人、入居前のデイサービスの職員、ケアマネジャーなど利用者に馴染みの方々の来訪があり、職員はお茶を出すなど、会話がすすむよう支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 特に新規で利用してきた方との関係づくりは難しいため、本人が関心ある事を聴取したり見出したり、一緒に出来る簡単な体操や歌などレクリエーションに参加しやすいよう配慮している。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 近隣施設に入居した場合は、面会に出向く時もある。家族にまでは、なかなかお会いできないのが現状です。	
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 各フロアで月1回カンファレンスを行っており、個々の対して検討する機会を話し合っている。毎日の関わりの中で、ふと本音を聞きだせる事もあります。 (外部評価) 一人ひとりの思いや希望は日常の関わり、特に、利用者との会話、しぐさ、表情、そして家族からの情報等で把握している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 家族さんやケアマネ、利用していたサービス担当者から聞き取りを行い把握に努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 行動の決定主体は、本人にある。個々に違う生活のスタイルを重視し残存能力を見極めながら支援している。	



自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	<p>(自己評価) センター方式を取り入れており、家族との情報交換に基づきフロー全員で、モニタリングを施行している。 利用者本位のケアプラン作成し、課題解決ととケアに取り組んでいる。</p> <p>(外部評価) 各利用者の担当職員が中心になり、利用者や家族の意向を反映しながら話し合い、介護計画を作成している。毎月の検討の機会や状況の変化等、必要に応じて計画を見直している。変化がなくても6か月に1回はモニタリングしている。介護経過表に計画の主なものを転記し実践につなげている。</p>	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	<p>(自己評価) 利用者の日々の様子は、処遇用紙に記載し情報を共有している。 フロー会では、それを基に評価し計画の見直しを行っている。</p>	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	<p>(自己評価) 面会時間の制限をせず、いつでも家族と会える環境にしている。 家族が忙しい時は、協力病院の受診は職員が付き添い普段聞き取れない情報が聴取できたりします。 気分転換に利用者の状態を見ながら、外出や買い物に出かけたりしています。</p>	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	<p>(自己評価) 月2回、音楽療法を行ってくださっているボランティアの方が来てくれています。 同敷地内に併設されている保育所との交流会を行う等生きがいのある支援を継続しております。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	<p>(自己評価)</p> 基本的に母体病院であるが、歯科・眼科・耳鼻科等は 入居前の病院を本人や家族に選んでもらっており、場 合によっては、家族に受診の協力もお願いしている。	
			<p>(外部評価)</p> 利用者や家族が希望するかかりつけ医を家族が付添い 受診できるよう支援している。同系列の病院受診時 は、概ね管理者が付添っている。訪問看護ステーショ ンの看護師による健康チェックが週に3回実施され、 安心できる医療体制がある。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	<p>(自己評価)</p> 看護師が3名おり、健康管理・服薬管理の援助を行っ ている。 急変時には、緊急時のマニュアルにしたがって連絡体 制が整っている。医療連携にて、訪問看護が週3回訪 問してくれており、個々の病状に関して、情報交換を 行っているため、主治医と連絡が密に取れている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できる ように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	<p>(自己評価)</p> 入院時に、本人の情報提供を行い施設での状況を詳し く伝えられるようにしています。 可能な限り、お見舞いしその都度状態を把握し、退院 に向けて、主治医や看護師と相談し、退院後の生活に 向けてのカンファレンスも行っている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	<p>(自己評価)</p> 入所前の早い段階から、重度化・終末期に関して は、家族に説明している。法人内での施設の受け入れ が可能であり、家族も希望している。 職員も全員で理解している	
			<p>(外部評価)</p> 重度化や終末期の対応が可能で、早い時期から利用者 や家族と話し合っている。看取りのマニュアルは作成 しているが、実際の対応は同系列の病院の訪問診療や 訪問看護ステーションにより行われる。看取りを行う にあたり、職員の勤務体制や家族との関わり等の細か い取り決めがまだ十分とは言えない。	重度化や終末期の対応について職員がどこまでできる のかを見極め、また夜間の勤務状況やユニット間の助 け合い、家族の関わり方、家族の宿泊などについて、 話し合って取り決めていくことに期待したい。

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 高齢者介護『緊急時対応マニュアル』を購入して、全職員が知識を学んでいる。 個人的に、消防隊の方が小学校で行う緊急蘇生方などの研修やAEDの研修に参加している。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 避難訓練は年に2回実施している。消防隊の方から、災害時の避難について指導がありました。 運営推進会議の委員の方の紹介で、地区の消防団にも施設を見学してもらいました。 災害時には協力してもらえるようになっています。  (外部評価) 消防署の協力を得て、年2回の避難訓練を行ない、避難場所も確認し合っている。避難訓練には地区の消防団が参加するなど、いざと言う時の協力体制を築いている。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) トイレ誘導時は、その人に合った誘導や声掛けやを心がけ、もし失敗してもさりげなく居室に誘導し尊厳を損なわないように徹底している。  (外部評価) 一人ひとりの人格を尊重した接し方や丁寧な言葉かけをしている。小声でトイレ誘導をしたり、食事の食べこぼしをさりげなく始末する等、利用者の誇りやプライバシーを大切にしている。記録類は事務室で保管し、個人情報保護に配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 水分補給やお茶時間に飲み物の好みを聞いたり外出の際にメニューの選択ができるよう自己決定できる機会を得ている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 個々の生活ペースに合わせて、食事や排泄、日常の生活は職員が先に察知しその人らしく生活できるようさりげなく支援している。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) ボランティアや人との交流がある時には、入居者様の化粧や服装のおしゃれにも気を付けている。本人が以前利用していた、美容院にお連れしたり好みの衣服を季節毎に、買い物の機会を作っている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 食事の準備が可能な方に食事の盛り付けや配膳なども職員と共に行っている。食器洗いも協力してもらえるようにしている。 お誕生日には、好きなお菓子や、ケーキをトッピングするなど楽しみを持ってるようにしている。 (外部評価) 利用者は職員と一緒に食事の盛り付け、配膳、片付け、食器洗い等を行っている。各利用者は持参の茶碗、湯呑、箸を使って食事をしながら会話を楽しんでいる。職員は自力でゆっくり食事をとる利用者を温かく見守り、状態に合わせてきざみ食にする等の支援をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 栄養士さんが作成した献立が週1回届いており、高齢者向けにアレンジしたり、職員と利用者が相談し食事作りが行えている。 水分補給は、本人の好きな希望に沿い2時間おきに補給してもらっている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 食事の前には、カテキンによる殺菌作用が出来るように緑茶でうがいを施行している。 自力で出来ない方には、その人のペースに合わせて職員が付き添い義歯の洗浄・歯ブラシやコップ等の消毒も行っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 個々の排泄パターンを把握し、何気ない声掛けにて誘導している。「排泄チェック表」にて本人の排泄状況を職員が共有できている。	
			(外部評価) 排泄チェック表で各利用者の排泄パターンを把握し、また、表情やしぐさから察知してトイレへ誘導している。おむつはやむ負えず夜間のみ使用することもあるが、概ねトレーニングパンツで対応している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 排便の有無で、緊急事態に繋がる事も職員は理解できている。食材の工夫や水分摂取の把握、便秘防止体操や腹部のマッサージを取り入れている。 頑固な便秘の場合は、センナや緩下剤に頼る事もある。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 自宅に居た頃に使用していた、入浴剤を家族から預かって楽しみに入浴されている方もいます。一日毎に入浴を行っていますが、その日の状態に合わせて、入浴可能かどうか決めております。訪問看護にも相談する事もあります。	
			(外部評価) 週に3回の入浴を基本にしているが、毎日の入浴を希望する利用者には希望にそった支援をし、またシャワー浴を好む方にはその介助をし、個々に応じた入浴を支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 眠れない時は、歌謡曲やDVDにてコンサートなどを掛け、会話により眠れない事の不安を解消し支援しています。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 薬局から配布される薬剤情報をファイリングし、副作用用法など確認出来るようにしている。食事後の配薬や服用に関しては、リスクが無いように二人の職員でチェックするようにしている。また配薬チェック表にてサインを記載するようにしている。 残薬の確認は管理者が行っている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 食事作りが得意な方・準備をしてくれるなど役割を持ってきている。 信仰心のある方は、知人からその信仰に関する本などを家族や知人に差し入れしてもらっています。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 行き付けの美容院などの送迎は職員が行っている。 隣のGHの方と一緒に茶道クラブに参加しお抹茶と和菓子を頂き、作法の指導などボランティアを通じて支援させてもらってます。 季節に応じた植物の観賞なども近くに外出できています。 (外部評価) 利用者の希望にそって、ホーム周辺を散歩したり、玄関先の道路を歩き来するお遍路さんと挨拶を交わしたり、隣接の同系列の施設を訪れたりしている。また、欲しいものがあれば車でスーパーや衣料品店に出かけて買物を楽しんでいる。1階の出入口あたりでは、椅子に座って外気浴を楽しめる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 職員同行の上、買い物の支援を行っているが、支払いの際は都度見守りながら支払いが出来、尊厳を大切に出来るよう支えている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 遠方に住んでいる家族には、月2～3回家族から電話を掛けてきてもらい、精神的安定が図れるよう協力をお願いしている。 暑中見舞いや年賀状など職員からの文章に加え、本人からの言葉を一筆添え、お送りしています。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 玄関の靴の脱ぎ履時には、転倒防止の為に椅子を準備しており安全に配慮している。 玄関ポーチには、植物の観賞や日光浴などの場所となっている。</p> <p>(外部評価) 玄関や居間には観葉植物や季節の花が飾られている。居間は明るく広々としており、時計、カレンダー、テレビ、絵画や行事の写真などがゆったり配置されている。居間から眺められる坪庭には、植物が植えられ小鳥が訪れることもあり、利用者が心地よく過ごせる工夫がある。浴室、トイレ等は匂いもなく清潔感がある。</p>	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価) フロア内の真ん中に中庭があり、季節の花・バジル・小鳥箱がありガラスで四方を囲んでいる。その周辺を畳ベンチで囲んでおりそこに、少人数で会話を楽しめる時間が持てている。</p>	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 入居前に使用していた、家具やソファなど馴染みの物を置き、好きな歌手や家族の写真などは精神的安定が図れるよう工夫している。 会話用のお人形を置いたり、部屋の雰囲気作り・インテリアは家族と相談し決めている。</p> <p>(外部評価) 利用者が使い慣れたダンス、衣装ケース、テレビ、鏡、またお気に入りの歌手のポスターやぬいぐるみ、大切にしている仏壇や遺影等を持ち込み、一人ひとりが心地よく過ごせる居室となっている。</p>	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価) 残存能力を考慮し、起居が容易にし易いようにキッチンテーブルなどの高さなど本人の体系に合った物にしている。入所者様は、字が読めるので、トイレや洗面所の場所が矢印や案内板などで夜間でも移動し易いように配慮している。ローカが長い為、途中で休憩しながら移動できるように所々に畳ベンチを設置している。</p>	

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870800301
法人名	医療法人 葵愛会
事業所名	グループホーム いしかわ
所在地	四国中央市上分町861番地20
自己評価作成日	平成 21年 7月 21日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 ※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成21年8月11日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地形的に山の切り立った所に施設がある為、春には筍の子狩り、秋には栗拾いと季節感や森林浴が間近かに味わえます。  
 地域の人との交流の場が少ないですが、唯一併設の保育所の園児との交流会を月2回行っており、現在の各家族では味わえない世代を超えた場面の共有と、心の触れ合いができており、ボランティアによる音楽療法は認知症の進行におおいに役立っていると思います。  
 地域密着型施設として、地元の方に「グループホーム いしかわ」はどんな所か、を知って頂く為に出来るだけ多くの方と交流できるように運営推進会議の委員の方や、ボランティアの方々の訪問を大切にしています。  
 また、協力病院から訪問看護が週/3回訪問しており、入居者様の健康管理体制は整っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

医療法人が運営するホームで、母体病院の支援が得られ健康面で心強い。また、同系列の訪問看護ステーションの看護師が週に3回、利用者の健康チェックを行ない、必要時には医療対応をしている。また、同系列の老人保健施設、ケアハウス、デイサービス事業所等と連携があり、行事等を共にしている。職員は利用者の思いやペースを大切に、笑顔で接しながら、自立に向けた支援をしている。ホームは山林地にあり、利用者は筍や栗等の山の幸を収穫し食することを楽しみ、ゆったりと暮らしている。ホームには多くのボランティアが訪れ、災害時には地区消防団の支援が得られる仕組みがある。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		



(別表第1の2)

## 自己評価及び外部評価結果表

### サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

#### 【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

#### ※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。  
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人の関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。  
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!  
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!  
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム いしかわ

(ユニット名) もみじ

記入者(管理者)  
氏名 大原 かおり

評価完了日 H21 年 7 月 21 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
<b>I.理念に基づく運営</b>				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 私達の理念は、1 入居者様一人一人のペースに合わせるケアの提供 2 コミュニケーションを大切にしてい、心穏やかに笑顔で暮らせる環境作り 3 入居者様の意思を尊重して、自立の支援であり、日々実践に繋がられるよう各フロアーに掲げている。また個人の介護感も設定している。</p> <p>(外部評価) ホームは周辺の地域とのコミュニケーションを深め、利用者が地域でその人らしく暮らすことを願った理念をつくっている。管理者と職員は理念を居間に掲示し、申送りや職員会等でとりあげて共有に努めている。職員は各々、理念を具体化した目標をつくり実践につなげている。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 近所の盆踊り大会や秋祭りに、呼んで頂く事があるので入居者様の状態に合わせて、少人数ではありますが、積極的に参加している。</p> <p>(外部評価) 利用者は地域の盆踊りやお祭りに参加し、行事を楽しんでいる。地域のボランティアが音楽療法、大正琴、三味線、舞踊などで来訪したり、市内の高校生が就業体験に来たり、地域の人が草引きをしてくれる等の交流ができています。</p>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げていく認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 近所に民家がほとんど無いため、そこまでに至っていないのが実情である。 保育所との関わりは、各家族が進む中、高齢者と子供たちが、触れ合える時間を共有できる、唯一の場所となっている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	<p>(自己評価) 年2回家族会にお参加して頂き、利用者様の状況や家族とのふれあいや心配事の事などの意見交換や、ヒヤリハットの報告も隠さず話し合いを持っており、業務に対しての労いなども頂いている。</p> <p>(外部評価) 会議ではホームの状況や行事、利用者の状態等を報告し、参加者から質問や意見が出されている。出された提案やボランティアの情報等をサービス向上に活かしている。会議の参加者が家族会に出席したり、体操や行事に利用者とともに参加できるよう工夫する等、柔軟な会議運営をしている。</p>	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	<p>(自己評価) 地域包括支援センターより、認知症高齢者のモデル事業計画を、推進会議の席を借りて説明の機会を設けたり、介護保険の更新時には、窓口へ直接伺い近況報告を行っている。</p> <p>(外部評価) ホームは市の担当課を介護保険の更新で訪れた時などに、利用者の状況を報告して相談する等、日常的に連携し合っている。また、担当者から介護保険や認知症の情報を随時得ており、よい協力関係が築けている。</p>	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	<p>(自己評価) 日中はいつでも出入り出来るようになっている。 夜間は防犯の為、自動ロックされている。 施設内のベランダや風呂場など危険場所に関しては、リスクや事故防止の為施錠を行っております。 理解を深める為に、研修に参加したり職員会の時に伝達し日々心ざして実践に繋げており、身体拘束は行っていません。</p> <p>(外部評価) 代表者及び職員は身体拘束の弊害を認識し、拘束しないケアを心がけている。玄関は昼間は施錠してないが、外に自由に出られない時間帯もあり、この時間帯を少なくするよう努めている。ベッドからの転落防止策では柵をしないで横にマットを敷く、布団で寝る等の対応をしている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 何気ない日々の業務の中で、適切でない言葉が出た時は、管理者が個人的に注意をしています。定期的に研修にも参加し伝達講習も行っております。施設内での、身体的虐待は行っておりません。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 先日人権擁護の委員方と、施設側との食事・交流会を行い勉強する機会を持ちました。四国中央市全域の方がおられ、施設の状況を知って頂く良い交流が出来たと思います。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 入所の前には必ず施設に来所頂き、施設見学や施設の形態様式や病状管理など家族の心配等を聴取し説明しています。まず1日からでも、体験入所と言う方法を取っており、納得した上で契約させて頂いています。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 月1回高齢介護課より、ふれあい相談員さんが来てくださり、入居者様の状況等を見て下さったり、生の声も聞いて頂いております。満足度調査を行っており、介護サービスに活かせるように行っております。  (外部評価) 利用者の思いや意見は、日頃の会話、家族からの情報、相談員の聴き取り等で把握し、家族の要望等は来訪時、家族会、年1回の満足度調査、ご意見箱等で把握し運営に反映させている。苦情・相談の窓口は外部と内部に分けて文書に明記し、家族にも説明している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	<p>(自己評価) 職員会の時に全体の意見を聞き、日々の業務で簡潔に明確に業務が出来るように、業務改善シートの作成を行い、よりよいサービスが出来るように改善している。 問題事項に関しては、在宅部門や法人内の管理者会議でも取り上げており、業務に反映させている。</p> <p>(外部評価) 職員の意見や提案は、朝礼時の意見交換、業務中の気づきの申し出、毎月の職員会等で把握し、業務改善や運営に反映させている。</p>	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	<p>(自己評価) 資格取得や、活発な各種委員会の会議の出席などの参加には資格手当てにて支援している。</p>	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	<p>(自己評価) GH連絡協議会の研修や法人内の勉強会には積極的に参加し、サービスの質の向上に励んでいる。 施設内では、月1回の職員会に職員全体が集まるので勉強を開催している。</p>	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	<p>(自己評価) 隣のGHの管理者と定期的に近況報告や情報交換を行う機会を作っており、お互いの施設を行き来している。 ボランティアなどの交流やソーメン流しなどを利用して入居者間の交流を行っている。</p>	
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	<p>(自己評価) 入居申し込みを受けてからの待機時期の段階から、半年に1度は自宅に管理者が電話し、家族から現在の状況等を確認する。可能であれば、今利用しているサービス施設に出向いたり、交流の場があれば話す事もある。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 入居申し込みを受けてからの待機時期の段階から、半年に1度は、自宅に管理者が電話する。その時に家族から再度入居の待機状況や入居の意思の確認を伺いすると共に、家族の不満や介護負担を聴取し関係が継続できるようにしている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 本人家族はもちろんの事、ケアマネやMSWとの情報交換を行い、その背景にある問題を見極め、サービス利用に努めている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 同じ主婦の先輩・女性として嫁姑の様な存在で居られるように、洗濯や調理ど、普段の家事や子育ての悩みなど日々、会話の中で関わり良い関係作りを心がけている	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 職員は家族との関係には、どうしても勝てません。面会の制限を行なうことなく、来所して頂き近況の報告と一緒に過ごせる時間を共有する機会をもっています。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 担当のケアマネの方や、利用していた通所担当者も施設に訪問してくれる時があり、会話を楽しまれる事もある。以前住んでいた地域の方や近所の方の訪問があり会話やお茶の時間が持てている。法人内の異動や退職した職員も、時々顔を見せてくれています。  (外部評価) 家族や友人、民生委員、近隣の人、入居前のデイサービスの職員、ケアマネジャーなど利用者に馴染みの方々の来訪があり、職員はお茶を出すなど、会話がすすむよう支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 特に新規で利用してきた方との関係づくりは難しいため、本人が関心ある事を見出し、一緒に出来る簡単な体操や歌などレクリエーションに参加しやすいよう配慮している。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 近隣施設に入居した場合は、面会に出向く時もある。家族にまでは、なかなかお会いできないのが現状です。	
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 各フロアーで月1回カンファレンスを行っており、個々の対して検討する機会を話し合っている。毎日の関わりの中で、ふと本音を聞きだせる事もある。 (外部評価) 一人ひとりの思いや希望は日常の関わり、特に、利用者との会話、しぐさ、表情、そして家族からの情報等で把握している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 家族さんやケアマネ、利用していたサービス担当者から聞き取りを行い把握に努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 行動の決定主体は、本人にある。個々に違う生活のスタイルを重視し残存能力を見極めながら支援している。不穏が強い時は、隣のフロアーに協力をお願いし、過ごさせてもらう時もあります。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	<p>(自己評価) センター方式を取り入れており、家族との情報交換に基づきフロー全員で、モニタリングを施行している。 利用者本位のケアプラン作成し、課題解決ととケアに取り組んでいる。</p> <p>(外部評価) 各利用者の担当職員が中心になり、利用者や家族の意向を反映しながら話し合い、介護計画を作成している。毎月の検討の機会や状況の変化等、必要に応じて計画を見直している。変化がなくても6か月に1回はモニタリングしている。介護経過表に計画の主なものを転記し実践につなげている。</p>	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	<p>(自己評価) 利用者の日々の様子は、処遇用紙に記載し情報を共有している。 それを基に評価し計画の見直しを行っている。</p>	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	<p>(自己評価) 面会時間の制限をせず、いつでも家族と会える環境にしている。 家族が忙しい時は、協力病院の受診は職員が付き添い普段聞き取れない情報が聴取できたりします。 気分転換に利用者の状態を見ながら、外出や買い物に出かけたりしています。</p>	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	<p>(自己評価) 月2回、音楽療法を行ってくださっているボランティアの方が来てくださっています。 同敷地内に併設されている保育所との交流会を行う等、生きがいのある支援を継続しております。</p>	



自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	<p>(自己評価)</p> 基本的に母体病院であるが、歯科・眼科・耳鼻科等は 入居前の病院を本人や家族に選んでもらっており、場 合によっては、家族に受診の協力もお願いしている。	
			<p>(外部評価)</p> 利用者や家族が希望するかかりつけ医を家族が付添い 受診できるよう支援している。同系列の病院受診時 は、概ね管理者が付添っている。訪問看護ステーショ ンの看護師による健康チェックが週に3回実施され、 安心できる医療体制がある。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	<p>(自己評価)</p> 施設内には看護師が3名おり、健康管理・服薬管理の 援助を行っている。 急変時には、緊急時のマニュアルにしたがって連絡体 制が整っている。医療連携にて、訪問看護が週3回訪 問してくれており、個々の病状に関しては情報交換を 行っているため、主治医と連絡が密に取れている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できる ように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	<p>(自己評価)</p> 入院時に、本人の情報提供を行い施設での状況を詳し く伝えられるようにしています。 可能な限り、お見舞いしその都度状態を把握し、退院 に向けて、主治医や看護師と相談し、退院後の生活に 向けてのカンファレンスも行っている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	<p>(自己評価)</p> 入所前の早い段階から、重度化・終末期に関して は、家族に説明している。法人内での施設の受け入れ が可能であり、家族も希望している。 職員も全員で理解している	
			<p>(外部評価)</p> 重度化や終末期の対応が可能で、早い時期から利用者 や家族と話し合っている。看取りのマニュアルは作成 しているが、実際の対応は同系列の病院の訪問診療や 訪問看護ステーションにより行われる。看取りを行う にあたり、職員の勤務体制や家族との関わり等の細か い取り決めがまだ十分とは言えない。	重度化や終末期の対応について職員がどこまでできる のかを見極め、また夜間の勤務状況やユニット間の助 け合い、家族の関わり方、家族の宿泊などについて、 話し合っており取り決めていくことに期待したい。

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 高齢者介護『緊急時対応マニュアル』を購入して、全職員が知識を学んでいる。 個人的に、消防隊の方が小学校で行う緊急蘇生方などの研修やAEDの研修に参加している。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 避難訓練は年に2回実施している。消防隊の方から、災害時の避難について指導がありました。 運営推進会議の委員の方の紹介で、地区の消防団にも施設を見学してもらいました。 災害時には協力してもらえるようになっています。  (外部評価) 消防署の協力を得て、年2回の避難訓練を行ない、避難場所も確認し合っている。避難訓練には地区の消防団が参加するなど、いざと言う時の協力体制を築いている。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) トイレ誘導時は、その人に合った誘導や声掛けやを心がけ尊厳を損なわないように徹底している。  (外部評価) 一人ひとりの人格を尊重した接し方や丁寧な言葉かけをしている。小声でトイレ誘導をしたり、食事の食べこぼしをさりげなく始末する等、利用者の誇りやプライバシーを大切にしている。記録類は事務室で保管し、個人情報保護に配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 水分補給やお茶時間に飲み物の好みを聞いたり外出の際にメニューの選択が出来るよう自己決定できる機会を得ている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 朝の起床も個々に違うため、食事時間や食事の内容もその人に合った生活ペースに合わせてしている。 生活全体は、その日の状態をみながらレクリエーションの中に風船ベレーやハンドベル演奏など利用者が楽しく過ごせる様要望に応じて支援している。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) ボランティアや人との交流がある時には、入居者様の化粧や服装のおしゃれにも気を付けており、家族も協力して支援してくれている。 本人が以前利用していた、美容院に職員がお連れしたりしている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 食事の準備が可能な方に食事の盛り付けや配膳なども職員と共に行っている。食器洗いも協力してもらえるようにしている。 お誕生日には、好きなお菓子や、ケーキをトッピングするなど一緒に作れる楽しみを持つるようにしている。 (外部評価) 利用者は職員と一緒に食事の盛り付け、配膳、片付け、食器洗い等を行っている。各利用者は持参の茶碗、湯呑、箸を使って食事をしながら会話を楽しんでいる。職員は自力でゆっくり食事をとる利用者を温かく見守り、状態に合わせてきざみ食にする等の支援をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 栄養士さんが作成した献立が週1回届いており、高齢者向けにアレンジしたり、職員と利用者が相談し食事作りが行えている。 水分補給は、本人の好きな物を選択してもらい、2時間おきに補給してもらっている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 食事の前には、カテキンによる殺菌作用が出来るように緑茶でうがいを施行している。 自力で出来ない方には、その人のペースに合わせて職員が付き添い義歯の洗浄・歯ブラシやコップ等の消毒も行っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 個々の排泄パターンを把握し、何気ない声掛けにてその人に合ったトイレ誘導をしている。 「排泄チェック表」にて本人の排泄状況を職員が共有できている。	
			(外部評価) 排泄チェック表で各利用者の排泄パターンを把握し、また、表情やしぐさから察知してトイレへ誘導している。おむつはやむ負えず夜間のみ使用することもあるが、概ねトレーニングパンツで対応している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 排便の有無で、緊急事態に繋がる事も職員は理解できている。食材の工夫や水分摂取の把握、便秘防止体操や腹部のマッサージを取り入れている。 便秘が続いている場合は、ヨーグルトやこんにやくゼリーなどで対応します。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 自宅に居た頃に使用していた、入浴剤を家族から預かって楽しみに入浴されている方もいます。 一日毎に入浴を行っていますが、その日の状態に合わせて、入浴可能かどうか決めております。 訪問看護にも相談する事もあります。	
			(外部評価) 週に3回の入浴を基本にしているが、毎日の入浴を希望する利用者には希望にそった支援をし、またシャワー浴を好む方にはその介助をし、個々に応じた入浴を支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 眠れない時は、歌謡曲やDVDにてコンサートなどを掛け、会話により眠れない事の不安を解消し支援しています。 精神的に不安な強い方は、畳の場所を利用し職員と一緒に添い寝し安心して眠れるように支援しています。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 薬局から配布される薬剤情報をファイリングし、副作用用法など確認出来るようにしている。食事後の配薬や服用に関しては、リスクが無いように二人の職員でチェックするようにしている。また配薬チェック表にてサインを記載するようにしている。 残薬の確認は管理者が行っている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 食事作りが得意な方・準備をしてくれるなど役割を持ってきている。 6地蔵参りなど、精神的な安定が図れるよう本人の状態を見ながら気分転換の支援が出来る。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 行き付けの美容院などの送迎は職員が行っている。 隣のGHの方と一緒に茶道クラブに参加しお抹茶と和菓子を頂き、作法の指導などボランティアを通じて支援させてもらってます。 季節に応じた植物の観賞なども近所に外出できています。 (外部評価) 利用者の希望にそって、ホーム周辺を散歩したり、玄関先の道路を歩き来するお遍路さんと挨拶を交わしたり、隣接の同系列の施設を訪れたりしている。また、欲しいものがあれば車でスーパーや衣料品店に出かけて買物を楽しんでいる。1階の出入口あたりでは、椅子に座って外気浴を楽しめる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 職員同行の上、買い物の支援を行っているが、支払いの際は都度見守りながら支払いが出来、尊厳を大切に出来るよう支えている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 遠方に住んでいる家族から、個人の携帯電話を預かっており、いつでも連絡できるようにしており、家族も頻りに電話してくれ協力してくれます。 暑中見舞いや年賀状など職員からの文章に加え、本人からの言葉を一筆添え、お送りしています。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 玄関の靴の脱ぎ履時には、転倒防止の為に椅子を準備しており安全に配慮している。 玄関ポーチには、植物の観賞や日光浴などの場所となっている。</p> <p>(外部評価) 玄関や居間には観葉植物や季節の花が飾られている。居間は明るく広々としており、時計、カレンダー、テレビ、絵画や行事の写真などがゆったり配置されている。居間から眺められる坪庭には、植物が植えられ小鳥が訪れることもあり、利用者が心地よく過ごせる工夫がある。浴室、トイレ等は匂いもなく清潔感がある。</p>	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価) フローア内の真ん中に畳の空間を作っており、横に寝転がったり、冬にはコタツにみかんを置いて良い会話の場所となっている。 夜間一人で寝る事が不安な方は、この畳の場所を利用し就寝されています。</p>	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 入居前に使用していた、家具や仏壇・テレビなど馴染みの物を置き、好きな歌手や家族の写真などは精神的安定が図れるよう工夫している。 会話用のお人形を置いたり、部屋のインテリアは家族と相談し決めており季節ごとに変化をもたせている。</p> <p>(外部評価) 利用者が使い慣れたダンス、衣装ケース、テレビ、鏡、またお気に入りの歌手のポスターやぬいぐるみ、大切にしている仏壇や遺影等を持ち込み、一人ひとりが心地よく過ごせる居室となっている。</p>	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価) 残存能力を考慮し、起居が容易にし易いようにキッチンテーブルなどの高さなど本人の体系に合った物にしている。入所者様は、字が読めるので、トイレや洗面所の場所が矢印や案内板などで夜間でも安全に移動し易いように配慮している。</p>	